



イラストは
たてに描いてね

このコーナーでは、皆さんからの便りをお待ちしています。
どんなことでもかまいません。どしどしお送りください。広報クイズの答えもお忘れなく。
《あて先》〒861-3296 御船町役場「おたより」係 ※住所を書かなくても届きます。
《Eメールアドレス》 kanri@town.mifune.lg.jp
※匿名希望の場合は、氏名の横にその旨を明記してください。ペンネームでもかまいません。



北野 ほのか さん



加来 涼馬 さん



井芹 優喜 さん



小学5年生の時 熊本市田迎地区の代表として市内のソフトボール大会へ出場。ユニフォーム姿の一枚

先生の青春昔話

町内に勤務する先生に、子どもの頃の思い出を話してもらうコーナーです。

私の小学生時代



高木小学校 久米 廣典 先生
(熊本市出身・43歳)

私が通った小学校は、1千人を超えるマシモス校でした。運動場での全校体育の際、あまりの狭さに手と手がぶつかってしまふほどでした。休み時間、その狭い運動場は遊ぶための「場所取り」競争です。遊びは「手打ち野球」。放課後は田んぼで日が暮れるまで遊ぶ。とにかく運動（遊び？）一色の小学生時代でした。ピアノを習っていました。こちらは野球と違い練習が嫌で好きな曲はよく弾いていましたが、嫌いな練習曲を初見で弾いたりして、先生に「練習してないね」と見透かされていました。でも、怒られた記憶はなく、親も練習を無理強いすることはありませんでした。今でも、運動や音楽に親しんでいられるのは、学びの環境に恵まれた小学校の頃の楽しかった経験が土台にあると思います。

皆さんからの便りをご紹介します。

まちへのラブレター

御 船高校ロボコン7回目の日本一おめでとう。わが町の誇る若者たち、孫息子から休みなしの毎日と聞いています。一番になること、集中力とこれからの頑張りがほしいですね。御船町もほかにたくさん頑張っていますね。将来が頼もしいです。
(御船・Kさん)

お孫さんがロボコンで頑張っているの、懐かしさですね。若い人たちが頑張っている話題が多く、頼もしく感じます。熱中できることがあるって素晴らしいですね。これからも輝いている人たちがどんどん紹介して応援します。
(広報担当)

実 家の母と暮らし始めて半年余り。結婚して家を出て30年余り経ち、改めて自分の生まれ育った古里の良さをかみしめながら、毎日を過ごしています。「古里に帰って来て良かった」とつくづく感じる今日この頃です。
(P.N. かづこ)

「古里」への思いは一度離れてみると、懐かしさもあり良さも実感できるのでないでしょうか？これからの生活でお母さんとの時間を大切に過ごしてくださいね。
(広報担当)

1 月のある日の新聞で広報みふねが賞をとっていることを知りました。おめでとうございます。これからも地域のみんなに愛され親しみやすい広報でいてください。応援しています。
(辺田見・Mさん)

県広報コンクールで広報みふねが、広報紙町村部で佳作に、一枚写真で入選を受賞しました。この賞は、情報提供や取材にご協力いただいた皆さんのおかげです。これからも、御船町を大好きになつてもらえるような紙面づくりを目指します。
(広報担当)

文芸

ひとひねり

短歌

虫たちも鳴き足りぬまま店じまい調べ消えたる夜の長さよ
北村やヨイ
立冬というに一日の暖かくキャベツの青虫コロコロ太る
平野 文子
一人居を諦め息子の住むもとへ去り行く蜃の後姿をみし
藤本 京子
音立てて思い出も共に壊れゆく築六十年の我が家解体
正宗タツ子
岩ごけを除きし墓処は輝きて祖らの喜ぶ声か聞こゆる
山本志満子
ようやくに心の疵も少し癒え窓より見ゆる柚子の実まぶし
市川 結子
一人居の部屋の静寂夜の更けに短歌の考慮に淋しき紛らす
甲斐レイ子

俳句

御船春菊句会 大坪路子選

川に影流して光り春隣
赤星 和子
土器に七種粥とおしんこう
緒方 宣子
東の山に向ひて御慶かな
守田 律子
大枯木これより心機一転す
黒田 順子

初夢に逝きたる夫の姿見る
渡邊 澄江
日あたりのよき処より春の来る
さとうともこ
偲ばれる句集に惹かれ初句会
緒方 栞

肥後狂句

天狗会

ピッタリ マネキンよりも似合うとる
増永 笑和
寝正月 こととんせん台所
平野 千鶴
すまし顔 さては悪戯したばいね
鳥井 蘭
バツサリ くわーいとなった並木道
江藤 お竜
散歩道 ほめてお花も貰いだし
吉田 楽園
働き者ン 貯めた資産が採めのもと
河地 ゆき
先祖代代 正月だけに出るお椀
鈴木 千春

一般投稿

しゅんしゅんと陽気立つヤカン 外は雪
内村 孝子
大家族幼な子の声朝夕に猫も十匹納戸の住人
松岡 文江
年明けて紅葉見える珍しい渡り鳥泳いでばかり冷たから
松山 和美
好きな人落葉散る時先に逝く
牛嶋 恵子
無駄花は一つも無くてなすの花彼岸すぎつつ紺色に咲く
里の母と会ったと思ふ亡き父の泥だらけの手やさしい笑顔
河地ツタエ
魚とり岩から岩へととびうつりみみず匂う手に握り飯食いき
河部 二男